

福祉用具貸与に関する要望書

千里ペインクリニックは2004年の開院から在宅ホスピス・緩和ケアを行っている施設です。開院から現在までに1100件以上のがん患者さんの訪問診療を行い、その7割の方を自宅で看取っています。がん患者さんが最期まで自宅で過ごすには病状の進行、症状コントロールの難しさ、介護の大変さ、家族、本人の不安など緩和ケアの専門性が必要となります。私たちは13年間在宅ホスピス、緩和ケアを専門に行ってきました。私たちの住む北摂地区では癌拠点病院も多く、核家族化、老々介護、昼間独居など介護環境が厳しいことに加え、医療依存度の高い患者さんも多く、ますます自宅で過ごすことが難しい状況です。そこで4年前にホスピス型賃貸マンション「アマニカス」を併設し、私たち医療スタッフが24時間常駐し医療行為の多いがん患者さんも自宅と同じように過ごしながらか緩和医療を受けることができます。「アマニカス」で過ごす患者さんも介護サービスを利用しています。

予後3ヶ月のがん患者さんは外出もできており生活面で自立されていることが多く、介護保険を利用されているケースはほとんどありません。しかし急に病状が悪化し短期間の間に死に至る例も多くあります。クリニックの開院当初にはがん患者さんの認定調査を早急にしてほしいと強く要望させていただき、現在では豊中市をはじめ北摂地区のがん患者さんの認定調査はスムーズになされるようになりました。今回がん患者さんの介護サービスの利用状況を知っていただき、がん患者さんに必要なサービスがスムーズに利用できるように配慮していただきたいと思ひます。

- 1) がん患者さんは介護度にかかわらず介護用ベッドの利用ができるようにしていただきたい
- 2) 協議書があれば福祉用具貸与はスムーズに受けられるようにしていただきたい

【参考資料】

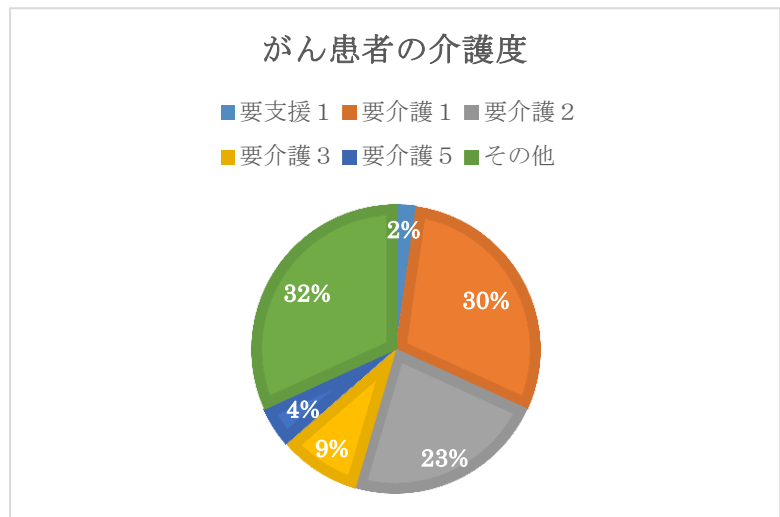
千里ペインクリニックの訪問を受け、亡くなった件数 47 人（2016 年 1 月～12 月の 1 年間）の介護に関する調査を行った。

●がん患者の訪問開始時の介護保険状況

介護度	人数（人）
要支援 1	1
要支援 2	0
要介護 1	13
要介護 2	10
要介護 3	4
要介護 4	0
要介護 5	2
その他※	14

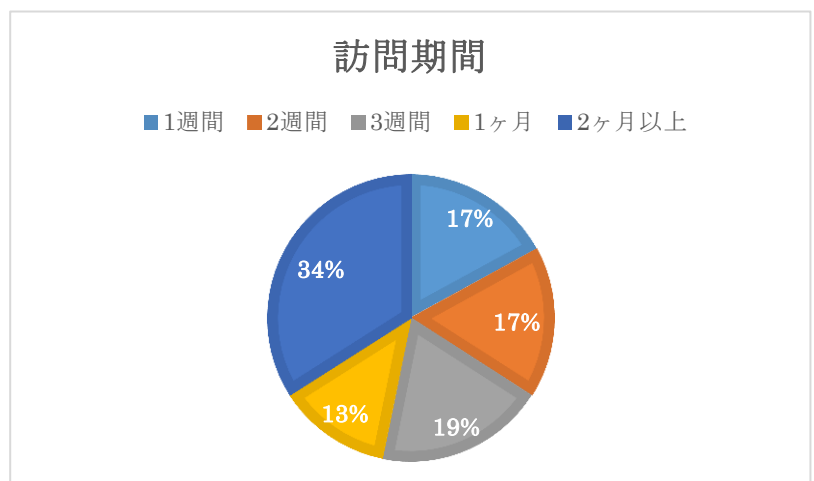
※その他は介護保険を申請しなかった、申請中、申請後結果が出る前に亡くなったなどの理由で介護保険を持たなかった

福祉用具貸与に関する協議書が必要な患者（その他を含む）は 28 人（64%）



●訪問期間（訪問開始～看取りまで）

期間	人数
1 週間	8
2 週間	8
3 週間	9
1 ヶ月	6
2 ヶ月以上	16



訪問診療を受けた患者の訪問期間の平均は 64 日（最短 2 日～最長 537 日）

そのうち福祉用具貸与に関する協議書が必要な患者 28 人の訪問期間の平均は 45 日（最短 2 日～205 日）

●訪問診療を受けた患者 47 人の介護サービスの利用状況

介護用ベッドの利用	46 人	98%
ヘルパーの利用	5 人	10%
訪問入浴の利用	1 人	2%
センサーマットの利用	2 人	4%

がん患者の病状は進行が早くデータからもわかるように亡くなる 2 ヶ月前の介護度の状況は約 6 割の方が軽介護状態である。2 ヶ月の間に状況は進行し死亡に至るため、訪問開始と同時に介護申請を行うことを勧めほとんどの方が介護用ベッドを利用している。しかしケアマネジャーから患者は軽介護のためベッドが自費になると説明される場合もあり、2 モーターの使い勝手の悪いベッドを利用していることもある。

このような状況を理解していただき、福祉用具貸与に関する協議書によりがん患者がスムーズに介護サービスを利用できるよう在宅でがん患者の対応にあたっているケアマネジャーには指導していただきたい。

またがん患者の場合は病気の進行でせん妄、不穏の状態になり危険な行動を取ることもある。家族の介護負担や看取りの不安などの理由で、自宅で最期まで過ごすことが困難になってきている。アマニカスに入居されている方はそのような方が千里ペインクリニックのスタッフによる医療・介護サービスを 24 時間受けている。夜間スタッフの手薄になる時間帯に危険防止のためにセンサーマットを使用する場合もある。そのような場合に介護用ベッドとセンサーマットを同時に使用するのは矛盾しているという理由で協議書を受けてもらえない例があった。介護用ベッドを利用しているがん患者が必ずしも寝たきりとは限らない。最近では認知症の方が癌を発症されることも多くなっている。介護用ベッドとセンサーマットを同時に使用する場合があることも理解していただきたい。

私たち在宅ホスピスを勧める医療者として、早くからの緩和ケア（訪問診療）をと患者・家族・病院スタッフに呼びかけ続けている。ガン末期の特徴として症状が進行し始めると早く介護度の変更申請が間に合わないことが多い。ガン末期の患者は利用するサービスも限られる。このことを理解していただき上記の 2 点がスムーズに利用できる環境になってほしいと要望する。